

第17回 伸びよう伸ばそう青少年 少年の主張発表会

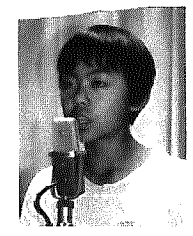
「村民の青少年健全育成に対する関心を高め、理解を深めてもらおう」と毎年行われている「少年の主張発表会」が、ことしも先月2日、公民館講堂で開催されました。小学生4名、中学生6名は、会場に詰めかけた家族などの前で、堂々と力強く発表しました。



和納小学校
6年 川上敦子さん

『親友と友達』

最近、親友と友達のちがいがわからなくなってきた。
「親友になろう」とか「親友やめよう」など気軽に言ってくる人がいるが、親友というのは、そんなに簡単に「なったり」、「やめたり」するものだろうか。
本当の親友とは、どのようなものなのだろうか。



岩室小学校
6年 田中雅さん

『すきとおった 間瀬の海を』

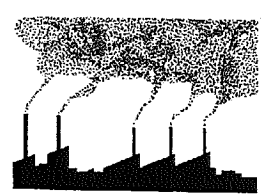
昔から、自分たちの庭のように愛し、守り続けてきた間瀬の海が今泣いています。
海の水は汚れ、浜にはゴミがふれています。海水浴客でにぎわいを見せていた昔の姿はもうありません。
何が原因なのでしょう。どうしていったらいいのでしょうか。



和納小学校
6年 廣澤太輝さん

『人類はほろびるか』

人類は今まで、いろいろ便利なものを作ってきたが、そのために環境が悪くなってきてしまった。環境破壊をやめないと、人類は地球上で生きることができなくなる。
こんなことにならないよう自然を大切にしたり、ゴミをむやみに増やさないようにしたり、いろいろな工夫をすることが大切だ。



岩室小学校
6年 草野竜也さん

『わたしたちの 岩室村をきれいに』

最近、釣りをしながら、魚が減ってきたことに気づきました。また、前はたくさんいたザリガニの姿も見かけないようにになりました。
こんなに自然の多い岩室でも、何か変化が起きているのではないのでしょうか。
急に元に戻すということはなかなか難しいと思います。しかし、何もしないでいるわけにはいきません。
一人ひとりが、自分の身の回りの中で、ほんの小さなことからでも気をつけていきたいと思います。
生活が便利になった今、より良い生活を求めて、自分のことばかり考えてしまっているのではないのでしょうか。



岩室中学校
1年 山田貴洋さん

『ゲームライティング』

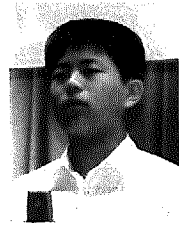
人はだれでもうれしい気持ちや感動する気持ちがあると思います。ほくは、その気持ちをゲームフイッシングを通して学びました。そして、ゲームフイッシングで学んだことをこれからも大切にしていきたいと思っています。
みなさんも自分が経験したことから得られるうれしさ、感動を大切にしてほしいと考えます。



岩室中学校
1年 佐藤愛さん

『魔法のオルゴール』

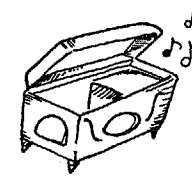
「あなたの宝物は、どんなものですか？」こう聞かれて、あなたはなんて答えますか？…答えられない人もいるかもしれません。宝物は人それぞれです。他人から見ても、うらやましい宝物もあれば、なんでもない宝物まであります。



岩室中学校
2年 廣澤智哉さん

『2年目のバトンパス』

僕がこの題材を作文にしたのは、二年目という時期の大切さを深く考え、また他の人たちにも知ってほしかったからです。
二年生という学年があつての中学校。いくら三年生が良い伝統を作りあげてもバトンを受ける側の僕たち二年生がしっかりしなければ何もありません。
だからこそ、一般的に目立たないと言われる「二学年」の大切さを分かってもらいたいです。



岩室中学校
2年 島崎直実さん

『自分の中にある 輝くもの』

私が大嫌いな数学の問題をやっていると思うこと、それは、自分にはなぜできないのだろうという悔しさ。そして、つい自分をダメな方へもって行ってしまいがちですが、自信を持たなくては何も始まりません。
自分の中にある小さな才能を持つてば、きっと大きなものになり、光り輝くでしょう。
個性は、人が伸ばしてくれるものではないです。自分で伸ばすものなのです。
「輝く個性を持っている自分を信じて……。」



岩室中学校
3年 石田香織さん

『“あなた”と私』

自分のまわりには、どんな人が



岩室中学校
3年 間由佳里さん

『きつとやさしさからはじまる』

私を変えたもの。それは、祖父の死、そして、その後にあつたヘルパーでの心打つ出来事です。
自分を変えることは簡単である。
しかし、きつかけがないとむずかしい。でも、ボランティアはきつかけがなくなつて、自分の心の中にある「やさしい心」さえあればできるのです。
空き缶がひとつ目の前に落ちています。これを拾うこともひとつのきつかけになると思います。

